

「伝え合う力」を高めるための指導と評価の一体化 —「話すこと・聞くこと」の活動を中心として—

有田市立箕島小学校
教諭 馬場 恵子

I はじめに

小学校学習指導要領国語科の目標において、「伝え合う力」は、「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり理解したりする力である」(*1)と述べられており、「これからの情報化・国際化の社会で生きて働く国語の力であり、人間形成に資する国語科の重要な内容となるものである」(*1)と、その意義が示されている。

箕島小学校では、「思いや考えを発信する子どもを育てる」を研究主題として、各教科や総合的な学習を通して研究に取り組んできた。その結果、昨年度担任した3年生の学級においても、自分の思いや考えを意欲的に伝えようとする子どもが増えてきた。しかし、相手によく分かるように工夫して自分の考えを話すことのできる子どもはまだ少なく、相手の話に耳を傾けてじっくりと聞き、進んで話し合おうとする態度を身に付けるまでに至らないのが現状である。

そこで、子どもたちの「伝え合う力」を高めるための指導と評価の一体化について研究を進めるために、本主題を設定した。

II 研究仮説

「話すこと・聞くこと」の学習指導の過程において、評価規準に基づいた適切な評価活動を行い、評価を指導に生かしていくことで、子どもの「伝え合う力」を高めることができるであろう。

1 評価活動とは

ここでは、次の2点を中心に、評価活動を行う。

- ・自己評価、相互評価を学習活動に取り入れる。
- ・個人内評価を重視する。

研究の概要は、以下の通りである。



(図1) 評価についての研究概要

自己評価を取り入れることで、子どもは自分の力を見つめ、次の課題を認識し、学習のめあてをもつことができる。

相互評価を取り入れることで、他からの評価を受け止め、それを自分の学習に生かすことが可能になる。さらには、相手を尊重し、互いを認め合う人間関係の構築を促したい。

個人内評価を工夫することで、個々の学びの過程を大切にされた個に応じた指導ができる。一人一人のよさを伸ばすことを心がけ、励ましながら個性を生かしていくことで、子どもは自分のよさを認めることができ、成就感を得、次の課題に挑戦する意欲をもつことができると考える。個人内評価を充実させ、指導に生かすために、個人指

導カルテを作成する。

このような評価の積み重ねは、子どもの「伝え合う力」の向上につながると考える。ただ、「話すこと・聞くこと」の評価には、次のような難しさがある。

- ・子どもの音声言語に関する活動が、極めて日常的であり広範囲であるため、自分の話し方、聞き方のよさや課題を自覚することは難しい。
- ・音声は、発せられたと同時にすぐに消えてしまうものであるため、印象や直感に頼りがちになる。

そこで、評価の補助的な手段として、VTRやテープレコーダー等による記録を活用する。

2 「伝え合う力」とは

今回、検証授業を実施する箕島小学校4年生の子どもの実態をふまえ、「伝え合う力」を次の3点ととらえる。

- ・自信をもち、相手によく分かるように工夫して話す能力
- ・話の中心に気を付け、相手の思いを受け止めながら集中して聞く能力
- ・互いのよさを認め合いながら、進んで話し合おうとする態度

III 検証授業について

1 授業の構想

(1) 対象 有田市立箕島小学校 第4学年（男子15人 女子11人 計26人）

(2) 単元名 「心に残る発表会をしよう」（光村図書四年(上)）

(3) 題材名 「十さいを祝おう」

(4) 単元の目標

- ・十歳を祝う発表会の計画について話し合い、実行する。
- ・発表会で、自分の思いや願いをこめたスピーチをする。

(5) 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・「十さいを祝おう」という気持ちを大切に、楽しい発表会を開くために進んで話し合おうとする。
- ・スピーチを通して、自分の思いや願い、夢、決意などを伝え合おうとする。

【話す・聞く能力】

- ・発表会に向けての話し合いにおいて、話題に沿って発言したり、友だちの意見を受け止めて発言したりする。
- ・伝えたい話題を選び、聞き手に伝わるように組み立てを考えてスピーチをする。
- ・話の中心に気を付けて友だちのスピーチを聞き、自分の感想をまとめる。

【書く能力】

- ・話の組み立てを考えて、スピーチ原稿やメモを書く。

【言語についての知識・理解・技能】

- ・場に応じた適切な音量や速さで話す。
- ・「賛成・反対・付け加え」などの言葉を知り、発言するときに使う。

(6) 指導にあたって

学級の子どもは、みんなによく分かるように工夫して話すことに自信がなく、相手の思いを受け止めながら聞くことが苦手である。また、質問をしたり、感想を言い合ったり、相手と音声言語を通して交流する際に、消極的な態度が目立つ。しかし、「話すこと・聞くこと」に関して、もっとうまくやりたいという意欲をもち、向上を目指している子どもは大変多い。

本単元は、子どもが、「十さいを祝おう」という誇らしい気持ちになれるよう設定されている。また、友だちとの意見の相違を乗り越えたり、自分の生き方を振り返ったりすることのできる単元である。

そのため、話し合いやスピーチに臨む姿勢において、目的意識と意欲に満ちたも

のようになることが期待できる。子どもの意欲を一層高めるように工夫したい。それが、活動の充実につながると思う。

この単元においては、まず発表会を開く意義について考えさせたい。そして、話し合い活動を通して、心に残る自分たちの発表会を作り出そうとする課題意識をもたせたい。発表会の意義を明らかにし、課題をはっきりさせ、目的をもった言語活動を仕組むことにより、話し合い活動の内容や方法について、しっかり考えなければならぬという子どもの意識を生み出すことができるであろう。

話し合い活動やスピーチの練習は、まずグループで行い、次に学級全体で行うことにする。このような形態で学習を進めることにより、子どもは、積極的に話し合ったり、恥ずかしがらずにスピーチをしたりすることができるであろう。また、スピーチの練習の過程に、自己評価や相互評価を取り入れることで、子どもは、話し方の修正点を具体的につかみ、意欲的に学習に取り組むことができると考える。

(7) 単元の指導・評価計画

		○ねらい ・学習活動	() 評価規準 【 】 評価方法	努力を要すると判断された児童への具体的な対応や手だて
第一次	第1時	○十さいを節目に、自分の十年間を振り返りながら発表できる。 ・本時のめあてを確認する。 ・単元名とリード文、教科書の写真から、自分の十年間の思い出やこれからの願いについて話し合う。	(関・意・態) ・自分のこれまでの思い出やこれからのことについて、意欲的に発言する。 【発言・ワークシート・自己評価カード】	・対話によって、これまでの思い出やこれからのことについて話せるようにする。 ・発言しにくい子どもには、ワークシートを参考にしてみんなに伝えるように促す。
	第2時	○学習の見通しをもち、「十さいを祝う会」を作っていく意識を高める。 ・本時のめあてを確認する。 ・学習計画表をつくる。 ・自分たちの発表会のタイトルを決める。	(関・意・態) ・「十さいを祝おう」という気持ちを大切に、これからの学習課題について、進んで発言する。 【発言・ワークシート・自己評価カード】	・学習の見通しがもてない子どもには、祝う会でスピーチをするためには、どのような準備が必要かを考えさせる。
第二次	第3時	○「十さいを祝う会」を開くために、議題と話し合いの進め方について話し合うことができる。 ・本時のめあてを確認する。 ・「十さいを祝う会」を開くために、決めておかねばならないことを出し合い、話し合いの進め方を決める。 ・話し合いをする際に気をつけることを確認する。	(話・聞) ・話題に沿って話し合う。 【発言・話し合いの様子・自己評価カード】	・意見をもてない子どもには、教科書(p 72~73)を参考にさせたり、席の近くの子とも話し合わせたりする。
	第4時	○「十さいを祝う会」の計画について、グループで司会の役割を分担しながら、話題に沿って話し合うことができる。 ・本時のめあてを確認する。 ・司会の役割を分担し、話し合いの順序に沿って、グループで話し合う。	(話・聞) ・話題がそれないように意見を整理し、話題に沿って話し合う。 【発言・話し合いの様子・自己評価カード】	・発言できない子どもには、友だちの意見に対して賛成、反対の立場を、司会者から引き出させる。 ・会を進められない司会者には、「司会の進め方について」を参考にさせる。
	第5時	○自分の立場を明らかにしながら「十さいを祝う会」の計画について、学級全体で話し合うことができる。 ・本時のめあてを確認する。 ・グループで話し合ったことをもとに、「十さいを祝う会」の計画について学級で話し合う。	(話・聞) ・相手の発言に対して、自分の立場を明らかにして話し合う。 (言語) ・「賛成・反対・付け加え」などの言葉を使って発言する。 【発言・話し合いの様子・自己評価カード】	・発言できない子どもには、グループでの話し合いをもとにして発言させる。 ・自分の立場が明らかでない子どもには、先の意見のどこに賛成か反対かを考えさせる。

第三次	第6時	<p>○自分のスピーチの内容について、伝えたいことの内容をはっきりさせ、構成を工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを確認する。 ・自分のスピーチの内容について、伝えたいことの内容を決める。 ・ワークシートを使って、スピーチの構成を考える。 	<p>(話・聞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題を選び、伝えたいことの内容をはっきりさせた構成をする。 <p>【ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことの内容を確かめ、それを支えるエピソードを想起させる。また、初めと終わりがつながりをもった内容のスピーチを構成させる。
	第7・8時	<p>○1分間に分かりやすく話せる文章の適量を知り、スピーチ原稿とスピーチメモをまとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを確認する。 ・1分間に分かりやすく話せる文章の適量を知る。 ・スピーチ原稿を書く。 <p>・スピーチメモにまとめる。</p>	<p>(書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1分間のスピーチに適した分量の文章で、スピーチ原稿を書く。 ・伝えたいことの内容をはっきりさせ、簡潔なスピーチメモを書く。 <p>【原稿・スピーチメモ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ原稿を書きにくい子どもには、ワークシートを参考にさせたり、対話を通して、自分の伝えたいことをはっきりさせ、原稿が書けるようにする。 ・スピーチメモが書きにくい子どもには、前時のワークシートを使って、スピーチ構成を考えさせる。
	第9時	<p>○自分の思いや願いがよく分かるように、声の大きさや速さなどを工夫し練習することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを確認する。 ・スピーチを録音し、グループで聞き合う。 ・自分の課題を見つけ、練習する。 <p>・本時の練習のまとめとして、スピーチを録音する。(2回目)</p>	<p>(話・聞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場に応じた声の大きさや速さに気をつけ、聞き手を意識して、内容を修正したり話し方を工夫したりする。 <p>【話し方・活動の様子・自己評価カード・相互評価カード】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチの修正に見通しがもてない子どもには、相互評価カードを読み返させたり、教師が修正のポイントを助言したりする。
第四次	第10時	<p>○今までの練習をふり返ることで、自分の課題を見つけ、スピーチの練習をすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを確認する。 ・今までの練習をふり返り、自分の課題をもつ。 ・自分の課題に沿って練習し、友達どうしでアドバイスしあう。 	<p>(話・聞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよいスピーチにするために、自分の課題に沿って話し方を工夫する。 <p>【話し方・活動の様子・自己評価カード・相互評価カード】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・練習によって上達したところを伝える。また、どこを改善すればさらによいスピーチになるかについて考えさせる。
	第11・12時	<p>○自分の思いや願いが聞き手に伝わるようにスピーチができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを確認する。 ・準備を確認して、プログラムに沿って会を進める。(VTRに録画) 	<p>(話・聞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いや願いが聞き手に伝わるように話す。 ・話の中心に気をつけ、内容を正しく聞き取る。 <p>(言語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場に応じた声の大きさや速さを工夫して話す。 <p>【話し方・聞き方・自己評価カード】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチメモだけでなく、原稿も参考にして発表させる。
第五次	第13時	<p>○「十さいを祝う会」を振り返り、自分や友だちのスピーチの内容や話し方のよさに気付き、自分なりの感想がもてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを確認する。 ・自分のスピーチを振り返ったり、友達のスピーチの感想を述べたりして、発表会の成果をまとめる。 	<p>(関・意・態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちのスピーチの内容や話し方のよさに気付き、「十さいを祝う会」を振り返る。 <p>【発言・自己評価カード】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの評価カードを振り返り、進歩したところに気付かせる。

2 研究仮説の検証

『話すこと・聞くこと』の学習指導の過程において、評価規準に基づいた適切な評価活動を行い、評価を指導に生かしていくことで、子どもの『伝え合う力』を高めることができるであろう」という研究仮説について、検証1、検証2、二つの観点から検証する。

(1) 検証 1

自己評価、相互評価を学習活動に取り入れ、指導に生かしていくことで、子どもの「伝え合う力」を高めることができたか。

スピーチの練習の過程における、A児の自己評価カードと相互評価カードに記された内容を中心に、自己評価と相互評価の効果について検証する。

A児は、何事にも前向きに取り組む真面目な子どもである。「話すこと・聞くこと」に関する学習前のアンケートでは、「話すこと」は、自信がなく好きではないと答えている。また、「注目されると、恥ずかしくて大きな声で発表できない」点を自分の課題としている。日頃からおとなしく、友だちとおしゃべりをする際もそれほど大きな声を出す子どもでないことから、A児が課題としている声の大きさに関しては、聞き取りやすい音量で話せば十分であるということをお伝え、緊張や不安を取り除くような配慮を行いつつ指導にあたった。

	アドバイスカード 「気がついたことやアドバイスしたいこと」	ふり返りカード 「一言感想」
第9時	<ul style="list-style-type: none"> もう少し声を大きくするといいです。 もうちょっとみんなの方を見て話すようにするといいよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 話の中心を伝える話し方ができるようになったけど、めあて①、④（声の大きさ）（聞き手の方を見る）は、まだできなかった。
第10時	<ul style="list-style-type: none"> もう少し大きい声で話したらいいと思います。ほかは全部いいです。 もうちょっと声を出したらいいなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなに分かりやすいように、もう少し（声の大きさ）をがんばりたい。
	「先生から」（授業後の教師の感想）	
第11時 第12時	<ul style="list-style-type: none"> Aさんのスピーチは、一番後ろの先生のところまでちゃんと聞こえていました。将来は、人の役に立ちたいという夢が伝わるすばらしいスピーチでした。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分では（声の大きさ）をがんばれたと思います。でも、後ろの方の席にすわっている人にもちゃんと聞こえたかどうか、自分では分かりません。
第13時	VTRで自分のスピーチをふり返った後の感想	
	<ul style="list-style-type: none"> みんなの前で話すのは、はずかしくてとく意でなかったけど、みんなが真剣に見てくれるから、話すことに自信がついて前より好きになった。 	

A児の自己評価カード、相互評価カードに記された感想

ふり返りカード ㊸

11月18日 名前 []

☆ 今日めあて	◎○△
☆ ① 聞き取りやすい声の大きさを話せたか	○
☆ ② 聞き取りやすい速さを話せたか	◎
☆ ③ ていねいなことばづかい（です・ます）で話せたか	◎
☆ ④ 聞き手の方を見て話せたか	○
☆ ⑤ 話の中心を伝える話し方であったか	◎

一言感想
話の中心を伝える話し方ができるようになったけど①④がまだできなかった。

先生から⑤ができるようになったのは今日の練習の成果だね。①の声は、ずいぶん出たよ。④は、あずかいだね。みんなの方を見て話すのは、はずかしかおもしろいけれどみんな ちゃんのことを伝えていますよ。

A児の自己評価カード（第9時）

アドバイスカード

11月20日 名前 []

()さんのスピーチ		◎○△
○ ① 聞き取りやすい声の大きさを話せたか		○
○ ② 聞き取りやすい速さを話せたか		◎
○ ③ ていねいなことばづかい（です・ます）で話せたか		◎
○ ④ 聞き手の方を見て話せたか		◎
○ ⑤ 話の中心が伝わったか		◎

気がついたことやアドバイスしたいこと
もう少し大きい声で話したらいいと思います。ほかは全部いいです。

A児への相互評価カード（第10時）

第9時のふり返しカードには、「話の中心を伝える話し方ができるようになった」と記されており、練習を通して身につけたことが意識できている。そして、「声の大きさ」と「聞き手の方を見て話す」ことを次時の課題としている。第10時では、「聞き手の方を見て話す」ことはできるようになっており、友だちからのアドバイスを受けて、「声の大きさ」をさらに次時の課題としている。このような学習を通して、スピーチの発表会では、聞き取りやすい声で、みんなの方を見ながら自分の将来の夢を伝えることができた。

評価規準に基づいて示した「今日のめあて」に沿って自己評価をすることで、A児は自分の力を見つめ、次の課題を認識し、学習に取り組むことができた。また、友だちからアドバイスをもらうことで、自分のスピーチを客観的に振り返り、次の課題を明確にし、意欲的に練習に取り組むことができた。

自己評価、相互評価を学習活動に取り入れ、指導に生かしていくことが、A児の「話す能力」の向上につながり、第13時の感想には、「話すことに自信がついて前よりも好きになった」と記されているように、A児は、満足感や達成感を得たことが分かる。

(2) 検証 2

個人内評価を重視し、指導に生かしていくことで、子どもの「伝え合う力」を高めることができたか。

教師の指導と評価、及びB児とC児のふり返しカードに記された内容に基づいて、個人内評価を生かした指導の効果について検証する。

単元の学習前に、「話すこと・聞くこと」についての診断的テストを行った。診断的テストの結果と第一回目のアンケート結果とをあわせ、子どもの実態把握に努めた。また、個人内評価を充実させ、指導に生かすために、次に示すような個人指導カルテを作った。

〈個人指導カルテ〉

[指導にあたって]

- ・個別指導を要する子どもである。自分の考えに自信がもてず、進んで発言することに抵抗を示す。本児の良さを認めることによって、自信をもたせたいと考える。

	第 3 時	第 4 時
ねらい	「十さいを祝う会」を開くために、議題と話し合いの進め方について話し合うことができる。	「十さいを祝う会」の計画について、グループで司会の役割を分担しながら、話題に沿って話し合うことができる。
観評準備	話題に沿って話し合う。	話題がそれないように意見を整理し、話題に沿って話し合う。
ふり	進んで発言できたか	△ 進んで発言できたか
返	話題に沿って発言できたか	△ 話題に沿って発言できたか
り	理由を入れて意見を言うことができたか	△ 理由を入れて意見を言うことができたか
カ	話し手の方を見て聞くことができたか	○ 話し手の方を見て聞くことができたか
ド	自分の意見とくらべながら聞くことができたか	○ 自分の意見とくらべながら聞くことができたか
指導と評価	・隣席の友だちと話し合い、それをもとに発言するように促す。 ・授業後、聞き方がとても良かったことをほめる。また、「今度は発言したい」という発言への意欲を評価し、次時のグループでの話し合いにおいて積極的な発言ができるように励ます。	・大変意欲的に話し合い活動に参加している。 ・グループ学習の場面で、進んで発言していることをほめる。 ・次時は、本時のグループ討議をもとに発言するようにアドバイスをする。

ア B児の場合

B児は、「話すこと・聞くこと」に関する学習前のアンケートで、「話すこと」「聞くこと」は、ともに自信がなく好きではないと答えた子どもである。特に「話すこと」が苦手で、「恥ずかしがり屋で、声が小さい」と自分の課題をとらえているが、

「話すことがうまくなりたい」という願いも抱いている。そこで、発表会においてスピーチを成功させることで、B児の「話すこと」の自信につなげたいと考えた。

診断的テストの結果から、「話すこと」に関してB児には次のような傾向がみられた。声が小さく、言葉が不明瞭で、内容が聞き取りにくい。聞き手の方を見ずに、少しうつむきがちに話す。

以上のことから、B児に対する「話すこと」の指導のめあてを次の2点とした。

- ① 聞き取りやすい声の大きさと話すことができる。
- ② 聞き手の方を見て話すことができる。

	教師の指導と評価 ○は指導 ●は評価	ふり返りカード	
		「一言感想」	「先生から」
第9時 個別指導	○休み時間に個別指導をする。(通院のため授業は欠席) ○スピーチを録音し、それを聞くことで課題を見つけさせ、練習をさせる。 ●一回目は、声が小さく言葉も不明瞭であった。また、スピーチメモに基づいて話すことができず、原稿を見ながらスピーチをした。繰り返し練習することで、声の大きさについては改善された。 ○最後に再度録音し、それに基づいて練習の成果を確認させる。 ... ①	・はっきり言葉が言えるようになった。声もまあまあ出せた。	・練習するたびに、声が大きくなり話し方がよくなりました。最初と最後のスピーチを聞き比べたら、ぐんと上手になったのが自分でも分かったでしょう。
第10時 練習	○前時の練習の成果がグループの中でも発揮できているかを確認するため、B児のグループに入ってスピーチを聞き、個別指導をする。 ●声は小さめで、スピーチメモから目が離せず、聞き手の方をほとんど見ることができない。 ○放課後、聞き手の方を見て話せるように個別指導をする。 ... ① ②	・聞き手の方を見て話すことができなかつた。	・ずっとみんなの方を見ながら話さなくてもいいのですよ。自信のあるところやみんなに一番伝えたいところにポイントをしばって、みんなの方を見て話せたらいいと思います。
第11 12時 発表会	●第一回目の練習に比べて、大変上達している。声の大きさは十分ではないが、教室のみんなにはほぼ聞き取れる大きさである。前時の放課後の練習の成果が発揮され、聞き手の方を見て話すことができるようになってきている。 ... ① ②	・今日は、聞き手の方を見て発表ができた。	・みんなの方を見ながら一生懸命に話せましたね。小さいころ看護師さんに親切にしてもらったので、自分も看護師さんになりたいというBさんの気持ちが伝わってきました。
第13時	VTRで自分のスピーチを振り返った後の感想		
	・はずかしかったけど、みんなが聞いてくれるからがんばろうと思った。みんなの方を見て話せるようになった。練習もがんばったし楽しかった。前よりも「話すこと」に自信がもてるようになり、好きになった。		

授業時間内の指導だけでは十分でないので、休み時間や放課後を使ってB児に対する個別指導の時間を確保した。第9時は、録音したスピーチをB児と二人で聞き、B児の思いを確かめたり教師の評価を伝えたりした。対話を通して、B児は練習により上達してきた点を自覚するとともに、ほめられることで、苦手とするスピーチに自信がもてるようになってきた。第10時のグループによるスピーチの練習でも、めあてをもち意欲的に取り組むことができた。しかし、聞き手の方を見て話すことはなかなかできず、「一言感想」の欄にもそのことが記されていた。そこで放課後に、再度指導を行った。「一番伝えたいところはどこ」「メモを見なくても話せるところはどこ」などの対話を通して、聞き手の方を見て話す箇所を明確にさせた。

このような指導の結果、B児は、「練習もがんばったし楽しかった。前よりも『話すこと』に自信がもてるようになり、好きになった」(第13時の感想)と感じるようになった。

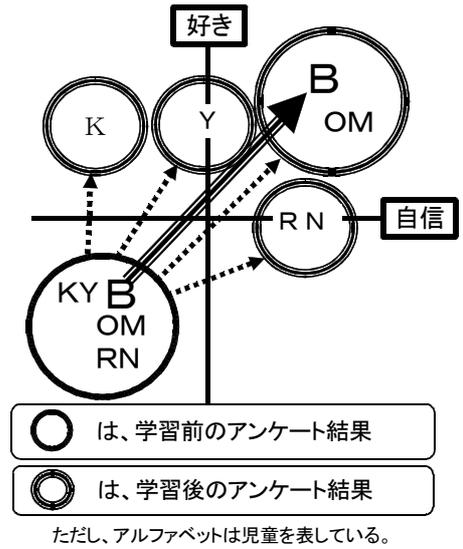
図2は、学習前と学習後の「話すこと」に関する意識の推移を表したものである。この図にも、B児の意識の変容が表れている。また、B児と同じように、学習前のアンケートで、「話すこと」に自信がなく好きではないと答えた他の6人の子どもにも、「好きになった」「自信がついた」と、意識の改善が見られた。このことは、個人内評価を重視した指導が、子どもの学ぶことの意欲を高め、自信につながった結果と考える。

イ C児の場合

C児は、学習前のアンケートで、『『聞くこと』は嫌いではないが、友だちが話しているときでも遊んでしまったりして集中できない』と答え、「集中して聞けない」ことを自分の課題としてとらえている子どもである。また、話し合い活動においてやや自己主張が強く、反対の意見を受け入れにくいという面が見受けられる。

そこで、C児の聞く態度に焦点を当て、よさや上達した点を伝えることで、「聞くこと」に対する意識を高めることを図った。また、互いのよさを認め合いながら、進んで話し合おうとする態度を育てていきたいと考えた。C児に対して、次の2点を指導のめあてとした。

- ① 相手の思いを受け止めながら集中して聞くことができる。
- ② 互いのよさを認め合いながら、進んで話し合おうとする。



(図2) 「話すこと」に関する意識

「一言感想」

「先生から」

第1時

進んで意見を言えなかった。でも、聞くのはできた。

はずかしかったのかな。野球のことがくわしく書いていますね。聞くことの◎はすばらしいです。話している人の方を見てしっかりと聞くことは、とても大切なことですね。

第3時

そんなに進んで意見を言えなかった。相手が話しているときは、顔を見て聞いた。

C君がつぶやいていたことをみんなの前で言えればいいですよ。次はグループで話し合うので、自分の考えを言いましょう。話の聞き方は、今日も very-good です。

第4時

相手の意見を聞いて、その反対のことを言ったり、その理由を言ったりできた。

相手の発言をしっかりと聞いていたから、C君もそのことに対して自分の意見が言えたのだと思います。理由を入れて意見を言うことができたのも素晴らしいです。

第5時

今日は意見が言えなかった。だから、次の時間は言う。めあての「相手の方を見て聞く」と「自分の意見とくらべながら聞く」は、ちゃんとできた。

おおぜいだと言いきにくいかな。グループでは意見を言えたのだからあと少しですよ。「次の時間は言うぞ」という気持ちが大切ですね。しっかりと聞いてくれると、話している人はとてもうれしいと思います。

第13時 (学習を振り返っての感想)

集中して聞くことができるようになった。聞くことに前よりも自信がもてるようになり、好きになった。

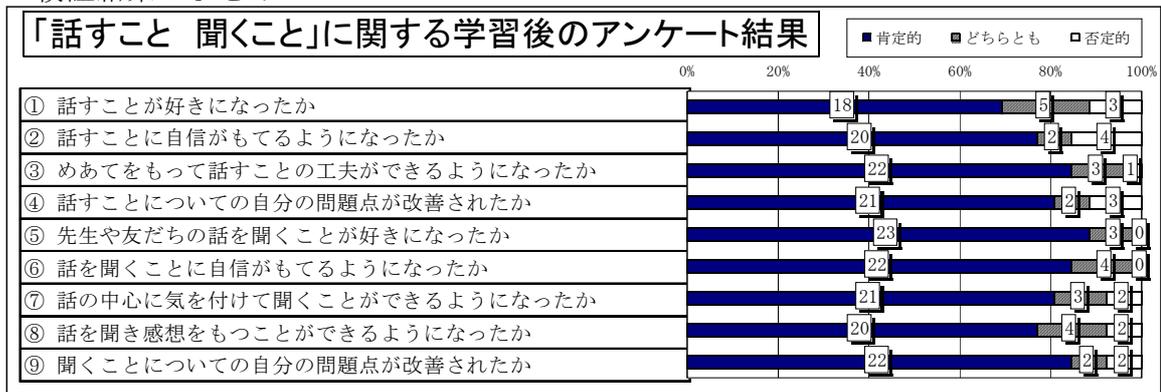
C児の自己評価カードに記された感想と教師のコメント

子どもが意欲的に話すためには、聞き手の態度が重要となる。そこで、第1時より学級全体に対して、積極的な発言を促すとともに、「話し手の方を見よう」「うなずきながら聞こう」等、聞く態度についての指導を行った。第1時という緊張感もあったが、全体的によい態度で聞くことができた。C児もその中の一人で、その時間の自己評価は◎であった。自己評価カードの「先生から」の欄に、C児の聞く態度をほめることを心がけ、C児との対話を続けていった。

教師のコメントを次の学習に生かしていることが、C児の「一言感想」から伺える。それに対して、教師はさらに次のめあてを示唆したコメントを返す。この繰り返しにより、C児は自らの聞く態度を意識することができ、課題の改善につながったと考える。また、学習中に、「話している人の方を見ているね」「うなずいていたね。同じ意見なんだね」など、C児への意識的な声かけも、「聞くこと」に対する意識の高まりを促したと考える。

このような指導と評価が、「集中して聞けるようになった」「聞くことに前よりも自信がもてるようになった」という向上をもたらしたと考える。また、第4時の「一言感想」からは、相手の意見と自分の意見を比べながら話し合えるようになってきていることが分かる。このことは、互いのよさを認め合いながら、進んで話し合おうとする態度の育成につながるものと考えられる。

3 検証結果のまとめ



(図3) 学習後のアンケート結果

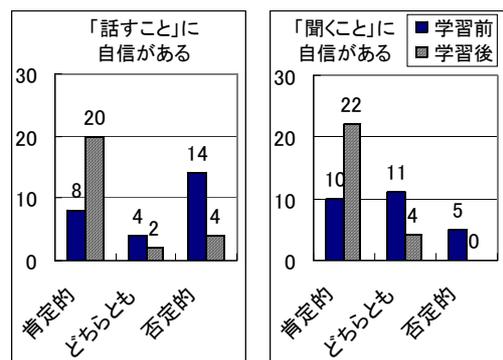
学習後にとった「話すこと・聞くこと」のアンケート結果(図3)を見ると、全項目で、大半の子どもが肯定的な意見であることが分かる。とりわけアンケート項目②、⑥「『話す・聞く』ことに自信がもてるようになったか」については、図4に示すように、今回の学習を通して「話す・聞く」ことに自信がもてるようになった子どもは、大幅に増加している。

検証結果1、2及び、アンケート結果の分析を総合すると、以下のことがまとめられる。

自己評価、相互評価を学習活動に取り入れるとともに、個人内評価を重視し、それを指導に生かしていくことは、本単元で設定した「伝え合う力」の育成に効果があった。

自己評価、相互評価を積み重ねることで、めあてをもち主体的に学習に取り組むことができた。また、個人内評価を重視し、一人一人の学びの過程を大切にされた指導の工夫をすることで、大半の子どもが自分の成長を実感し、達成感を味わうことができたと考える。

また、「話すこと」と「聞くこと」は密接に関連しあって高まっていく活動であるということが、次の子どもの感想からうかがえる。



(図4) 学習前後の意識の変容

「話し手の感想」

・はずかしかったけど、みんながこっちを見て聞いてくれたから、がんばろうと思った。
 ・やさしく、もんくを言わないで聞いてくれた。私のスピーチが終わったらみんなはく手をしてくれた。話すことに自信がもてるようになった。

「聞き手の感想」

・話が聞きやすく上手だから、聞くことが好きになった。聞かなきゃもったいないと思った。
 ・真げんに聞いていたら、発表者もがんばって話していた。



話し手は、聞き手が自分の方を見ながら集中し、話の内容だけでなく気持ちをも受け止めて聞いてくれることで、自信をもって意欲的に話すことができる。また、スピーチに対して、拍手や好意的な感想を表してくれることで、自信や達成感を得ている。

聞き手は、分かりやすく伝わるように内容や話し方が工夫されていると、楽しみながら集中してスピーチを聞くことができる。このことは、聞く能力の向上にもつながると思う。

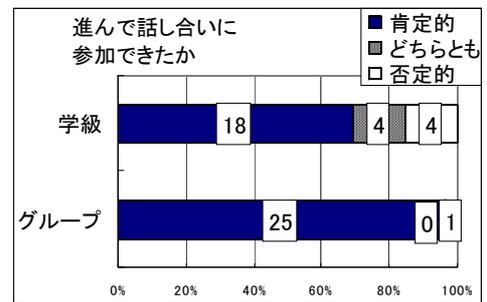
話し手も聞き手もともに育っていく、このような学び合う学習を展開していくことが、子どもの「伝え合う力」を育成する大きな拠り所になると考える。

IV 今後の課題

1 日常的、継続的な話し合い活動の指導

図5は、学習後のアンケート「進んで話し合いに参加できたか」の結果である。学級全体での話し合いにおいて、「進んで話し合えた」と答えた子どもは約6割である。話し合いに積極的に参加できなかった理由を、「みんなの前だと発言しにくかった」と答えている子どもが多いことから、学級全体での話し合いでは、緊張し抵抗があることが分かる。一方、少人数グループによる話し合いでは、「自分の意見に反対されたりもしたけど、意見を言い合ったり進んで発言したりするって大切だなあと感じた」「みんなが意見を聞いてくれたから、楽しみながら勉強できた」と、話し合いに十分参加できたと感じている子どもがほとんどである。

以上のように、進んで話し合おうとする態度を育てるためには、日常的、継続的に、あらゆる学習活動において、話し合う活動の場を工夫したり、活動の機会を増やしたりすることの必要性を感じる。また、話し合っただけという充実感を実感できるような話し合いの経験も、進んで話し合おうとする意欲を高めるためには、大切なものとなるであろう。



(図5) 話し合い活動についての学習後のアンケート結果

2 自己評価力、相互評価力の育成

子どもに自らの努力の過程や学習の成果を確認させることは、学習に対する関心と意欲を与え、主体的な学び方を身に付けさせるとともに、積極的な学習態度を育てるうえで重要である。また、自己評価や相互評価の結果は、教師が子どもの学習目標の実現状況を把握し、次の指導を改善する際の有用な資料として活用することができる。

自らの学びを振り返り、そこからよりよい学習のあり方を構想していくことのできる子どもを育てていくために、自己評価、相互評価を学習活動として指導計画に位置付け、子どもに評価力を培う取組を今後も続けていきたい。

〈引用文献〉

* 1 文部省 『小学校学習指導要領解説 国語編』 (1999)

〈参考文献〉

- ・小森茂著 『「伝え合う力」の育成と音声言語の重視』 明治図書 (1999)
- ・三浦和尚著 『「話す・聞く」の実践学』 三省堂 (2002)
- ・人間教育研究協議会編 『目標に準拠した評価の考え方と実際』 金子書房 (2003)